

令和三年度 古文書解読講座第一回 読み下し文

【史料①】

おぼえ
覚

一つ、この度当村三七郎弟梶之介妻にその御村勇藏姉いわ引き請け申
し候に付、これ迄の檀那寺宗門送手形にその御元御奥書の上御越
し成され、慥かに請け取り、自今右三七郎家内へ願い入れ候 処 相違
御座なく候、依つて請取手形件の如し

池田満治郎領分

窪屋郡福井村

明治二年

名主

横田静太郎

巳二月

同笹沖村

貞三郎

伊東播磨守様御領分

下道郡陶村名主

太田官藏殿

※池田満治郎…池田政保（一八六四〜一九三九）。鴨方藩十代藩主

※伊東播磨守…伊東長とし（一八四四〜一九〇〇）。備中岡田藩十代藩主

【史料②】

覚

一つ、この度当町奉公人長次郎妻にその御村てゐる引き請け申し候に
付、これ迄の旦那寺宗門送手形にその元御奥書の上御越し成され慥か
に請け取り、自今右長次郎家内帳へ願い入れ候 処 相違御座なく候、
仍つて請取手形件の如し

まつだいらくらのかみ
松平内蔵守様

さるうるう
安政七年申閏三月 御城下備前岡山

滝本町名主児島屋

幾次郎

わかさのかみ
伊東若狭守様御領分

備中下道郡陶村庄屋

太田官蔵様

よしまさ
※松平内蔵守…池田慶政（一八二三〜一八九三）。岡山藩八代藩主

ながやす
※伊東若狭守…伊東長裕（一八一六〜一八六〇）。備中岡田藩九代藩主

【史料③】

覚

一つ

おおたうきよう
その御村太田右京兄

こうあん
耕庵
しめていちにん
め壺人

にんべつちよう
じこんいざこ

もの まつだかいどう
右の者当町松田快堂方え引き越し参り候に付、自今已後当町人別帖

めん そうろうあいだ

面増人に書上げ申すべく候間、その御村人別御帳面減人に御書上

ごじつ ため にんべつうけてがた

げ成さるべく候、後日の為、人別請手形、依つて件の如し

げいしゆう

芸州領

びんご みつぎ

備後国御調郡

尾道町庄屋

慶応四年

辰四月

佐伯讓之助

備中国下道郡

陶村御庄屋

太田官蔵殿

【史料④】

覚

一つ、その御村市松後家ごけきやう賀養子むこようしに、六ヶ年以前丑二月当村多助うし
倅せがれ末吉差し遣さわし居つかり申し候処、この度双方和談そうほうわだんの上離縁いたし、右
多助方かたえ罷り歸り申し候に付、これ迄の檀那寺宗門送手形にその元
御奥書の上御越し成され慥かに受け取り、自今右多助家内帳え願ひ
入れ候処相違御座なく候、依つて請取手形件の如し

まつだいらぶぜんのかみ

松平豊前守領分浅口郡玉島村の内

うわなり

上成庄屋

安政五年

牧宇左衛門

午二月日

同人留主中代

年寄

紋兵衛

わかさのかみ

伊東若狭守様御領分下道郡陶村

御庄屋

官藏殿

※松平豊前守…松平信義のぶよし(一八二二〜一八六六)。丹波亀山藩七代藩主